

リーディングDXスクール事業【実践事例】

広島市立牛田中学校（広島県）

【取組内容①】 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

1. 中学校区の計画
中学校区全体で「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて取組む
2. 計画のポイント
 - ① 児童生徒「一人一人が問題解決する授業づくり」のため自らの授業を振り返る
 - ② 学習場面に応じた学びを一体的に充実 ③ 目指す授業（クラウド型の学び）
3. 牛田中学校区DX計画（USHITA-DX-PLAN）試案

牛田中学校区DX計画（USHITA-DX-PLAN）試案

1. 計画の目的

GIGAスクールにおける学びを充実させ、児童生徒の情報活用能力の育成を図り、児童生徒一人一人が問題解決をする授業づくりのため、1人1台端末とクラウド環境を活用した教育実践を創出・モデル化する。

2. 指定校（3校）

牛田新町小学校	牛田小学校	牛田中学校
豊かな夢や志をもち 共にたくましく生きる学校 ●児童数 448名 ●教職員 60名 ●18学級	心ときめく学校 ●児童数 1,237名 ●教職員 107名 ●45学級	夢・希望・可能性が 大切にされる学校 ●生徒数 885名 ●教職員 70名 ●21学級

3. 計画のポイント

① 児童への対応 ② 実現する学び ③ 目指す授業（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ→説明・発表 ※随時振り返り）

① 児童生徒「一人一人が問題解決する授業づくり」のため自らの授業を振り返る（プロットして個人や教科等の傾向を整理・分析）

② 学習場面に応じた学びを一体的に充実

③ 目指す授業（クラウド型の学び）

USHITA学びのヒートマップ

比治山大学 鹿江宏明教授との共同研究

【個別最適な学び】

- 指導・評価の個別化
一人一人に合った教材・学習時間・方法・評価
- 学習の個性化
自分の最適な学びを自力で計画・実行できる

【協働的な学び】

一人一人の良さや可能性を基に多様な他者と協働し、異なる考えが組み合わせることで生み出すよりよい学び

4. 基盤的環境

① 情報モラル教材「事例で学ぶNetモラル」導入 ② 情報担当者配置（中学校） ③ 教育支援システム導入（広島市）

参照:クラウド活用授業 (2022年 東京学芸大学 高橋純教授)